第９回静岡市市民活動促進協議会

（山岡会長）
それでは議事に入ります。次第に沿いまして、まず報告事項の「第４次静岡市市民活動促進基本計画の策定等について」です。事務局から説明をお願いします。

（事務局）
１月に、昨年度最後の協議会を開催して以降、初めての開催となりますので、改めて、第４次静岡市市民活動促進基本計画の策定について、報告をさせていただきます。
２年間の８回にわたる協議会での審議を通じて、諮問に対する答申、計画案へのご意見等、協議をいだたきありがとうございました。
これから８年間は、この計画をよりどころに施策に取り組んでいくわけですが、この協議会の議論のなかでもありましたように、社会の変化のスピードが大変速いため、こうした変化にもしなやかに対応し、大きな方向性は維持しつつも、計画に縛られるのではなく、計画をよりどころに、そのときに求められるものをしっかりと取り込んでいける形にしていきたいと考えています。
そのようななかで、現在、計画を具体的な取組に落とし込んでいくための準備として、今年度２つの調査を行うことを予定していますので、報告させていただきます。
ひとつめは、市民活動団体を対象とした調査を実施したいと考えています。
計画の中でも、柱４「つながる・かわる」の異なる組織や世代をつなぐ取組の支援という部分で、そもそも市は市民活動団体の把握に関して、団体情報としてはもっているものの、団体リストという程度とどまっています。もちろん市民活動センターでは、個々の相談を受けたり、普段の交流のなかで、もっと詳細に団体の情報を把握していますが、統計的な情報を得るための調査等はなかなか頻繁にできないので、規模や活動頻度、構成員の年代等、これらの状況について現状把握していきたと考えています。
具体的には市民活動ポータルサイト「ここからネット」に登録されている市民活動団体1,200 団体への調査票送付を検討しています。また、一般社団法人や一般財団法人も含めて調査できたらいいと考えています。市民活動団体の形態や活動の形が多様化しているなかで、NPO 法人だけではなく、市の施策上、対象としていく市民活動がどれくらいあるのか、と言うところも含めて、団体の状況や他団体との協働の状況、一般社団法人等については、非営利型かそうでないかなど、現状把握できたらと考えています。
次に、市政アンケートモニターです。こちらは、計画でいうところの施策の柱３　創る・実現する　市民活動を支える気運を高めるという部分で、市民同士で市民活動を支え合うといったことを実現していくための取組みを検討するにあたり、現状では、市の直接的な取組としてはふるさと納税を活用した市民活動への補助事業しかないものですから、「寄付」というものに着目して市民の意識調査をしたいと考えました。

市の広報課で、毎年「市政アンケートモニター事業」をやっており、予め市政アンケートモニターとして登録された市民の方々約 150 名に対して、月に 1 度アンケートを行うものです。多少の謝礼が出ることもあって回答率は 90%を超えるということと、少なからず市政に対して関心がある方々への調査という特徴があります。そうした多少のバイアスはありつつも、市民の寄付というものに対する意識の調査をしたく、寄付の経験や寄付の方法、理由、きっかけ、同じ寄付先に複数回寄付したことがあるか、また、寄付しなかった場合はなぜしなかったか、等を伺うことで、寄付に至るまでの行動のうちどのあたりがネックになっているのか、といったことを踏まえて、市の取組に反映できればと考えています。
計画の推進にあたり、必要な取組もセットで動いていけるよう、準備を進めているところでございます。報告事項は以上です。

（山岡会長）
　今の報告について何かご意見やご質問はございますでしょうか。

（川村栄司委員）
　寄付文化はなかなか日本で根付かないと前から言われていますが、いくらくらいなら寄付してもいいと思うかという項目があると参考になると思います。例えば、3,000 円ならなんとかできるけど、5,000 円はちょっと厳しい方が多かった場合、市民活動団体、あるいは NPO 団体等が寄付を募集するときの参考になると思います。

（事務局）
　寄付した金額で一番低いときはいくらでしたかとか、一番高いときはいくらでしたかというような質問を想定しています。併せて寄付の方法を、例えば現金なのかクレジットカードなのかキャッシュレスなのか、あとは、きっかけ等も含めてクロス集計することで、例えば現金だと低い金額の割合が多いとか、高い金額を寄付している時はキャッシュレスの傾向が多いといったような分析ができるかなと思っています。また、寄付をされなかった方の質問は、検討させてもらいたいなと思います。ありがとうございます。

（山岡会長）
　他いかがでしょうか。

（池田委員）
　この調査についてですが、取った後どうやって使われるかっていうのが決まっていたら、教えてください。アンケート調査をすると、現状把握で終わってしまうことが多いのですが、その先を見越す必要があると思っています。もし想定されてなかった場合、例え

ば出口戦略的なことに繋がる設問を盛り込んだ方がもっと有意義に使えるのかなと思います。

（事務局）
　質問としては、基礎情報をまず知りたいという意図がありますが、出口戦略のひとつとしては、ここからネットのことを聞きたいと思っています。先ほど申し上げたように、この調査は、ここからネットに登録されている団体あてにお送りしますが、現状として団体によって使用頻度がかなり異なります。ここからネットの使用状況に係る設問も入れることで、ここからネットの今後について考えるデータにしていきたいなと考えております。

（山岡会長）
　他いかがでしょうか。

（山本副会長）
　まず、一番目の市民活動団体と一般社団を含めてのアンケートの方ですが、どの程度のボリュームで各団体に要求するのかという点です。出口戦略がここからネットのことだけというのは、既存のソフトを活用してください。という答えにとどまり、大規模のアンケートを実施するのに対して少し勿体ないよう気がします。このようなアンケートで、よくある設問に「課題を教えてください」というものがあるのですが、多くの答えが「人が来ない」とか、「お金がない」ということになってしまうので、今この時代に NPO、非営利型の団体をやろうとしている可能性や意義、これからの展開、何にワクワクしているかみたいなこと、それが基にあって課題は何ですかと聞かれると、未来を見ましょうというメッセージにもなる気がしました。あまりボリュームが多いと答えにくくなるため、オープンな問いは、良し悪しではありますが、今活動をしている前向きな団体に向けての調査なので、それくらい突っ込んだ質問をしてもいいような気がしました。ここからネットについて聞くのは、ここからネットをこれから変えていく気があるなら聞いていいと思いますが、「すごく使いにくい」という言葉でほとんど終わってしまうような気もするので、質問をもう少し考えた方がいいように思います。以上です。

（事務局）
　ボリュームについては、多くても A4 裏表くらいかなと考えております。設問内容についても、課題踏まえた上で、その先をどうするかということを見据えた設問を考えたいと思っています。

（山岡会長）
　他いかがでしょうか。私から一つ、この最初の調査は毎年ですか。何年かおきですか。

（事務局）
　平成 26 年に一回、団体向けの調査をやっています。ただ、周期的にやることが決まっている調査ではなく、直近では 26 年度に同じような形で聞いたということです。

（山岡会長）
　そのときの対象がここからネットに登録している 1,200 団体だったということですか。

（事務局）
　そのときはまだここからネットがなかったので、市で持っている団体のリストや市民活動センターにご登録いただいている団体さんの方を対象にしております。

（山岡会長）
　それに今回一般社団法人を追加するということですか。

（事務局）
　そうです。

（山岡会長）
　検討中とあるのはどういうことですか。

（事務局）
　一般社団法人の把握の仕方については国税庁の法人番号公表サイトで、静岡市内の法人を一般社団法人というワードで検索するとヒットする団体が 380 団体程度ありますが、この方法による把握でよいか確認しているところでございます。

（山岡会長）
　公益法人は、ここには入れないのですか。

（事務局）
　公益法人も含めて調査を行いたいと思っていますが、その際は設問内容を変えていく必要があると考えています。

（山岡会長）
　静岡市の状況はわかりませんけれども、コミュニティ基金など NPO 等に助成をしている、公益財団法人等も存在するのではないでしょうか。

（事務局）
　先ほど申し上げたサイトで、静岡市内の法人を検索しますと、一般社団法人が 380 件程度、一般財団法人が 60 件程度です。公益社団法人が 40 件程度、公益財団法人は 40 件程度でした。

（山岡会長）
　調査時期が 6 月となっていますけど、すぐに実施するということでしょうか。

（事務局）
　少し作業が遅れ気味ではあるので、6 月中に設問内容を固めて、7 月頭に送る計画を立てているところです。

（山岡会長）
続いて、協議事項の「２年間の協議を振り返って」です。事務局から説明をお願いします。

（事務局）
第８期の２年間は、第４次静岡市市民活動促進基本計画の策定に関して集中的に審議を行いました。計画策定についての審議に関連して、都度、重要な話題があがりましたが、個別に深堀りを行うことができない部分もありました。
本日は、この２年間の協議を振り返って、今後、改めて議論を深めていくべきだと思われることについて、委員の皆様からご意見をいただければと思います。
なお２年間の協議会のなかで議論になったテーマについては、資料に記載のとおり事務局において例示させてもらいましたが、これ以外のことでも構いません。いただいたご意見については、次期協議会において扱うテーマの参考といたします。
２年間の協議の中で出た話題の例示について補足説明いたしますと

多様化している市民活動をどのように把握していくかについてですが、先ほどの市民活動団体調査のところでも触れましたが、法人の選択肢の多様化、また、そもそも「団体」という形態ではなく、プロジェクトベースで動いている活動というのも、オンラインでのイベントやミーティングが普及したことで、いろいろなところで生まれていて、更に把握もしにくくなっており、把握できない動きへのアプローチについて、どのように考えていくかといったこと。

計画の進捗をどのように評価（振り返り）をするかについては、協議会のなかでも時間をとって議論頂きました。市民活動そのものは数値で測れるものではありませんし、市民活

動そのものは評価されるような類のものではないですが、行政の取組が市民のみなさんの役に立っているのかどうかは、成果を説明する責任があるという部分もございます。計画策定のなかで整理させていただいたのは、成果指標は柱ごと指標をしますけれども、柱の指標が達成できたかできないかだけで、計画が進んでいるかどうかを判断するのではなく、市民活動団体へのヒアリングだとか、交流の場、対話の場づくりを通じて、質的な状況や変化なども把握していかなくてはならないという話でした。

自治会、町内会の活動についても、社会の変化によって、変容を求められているということと、一方で、コロナ禍の影響もあって、LINE による連絡手段の構築だとか、行事の見直しだとか、実際に既に変わっていっているという点について言及がありました。

協働パイロット事業、市の施策と市民活動との関連）ついてですが、市民活動を支援する制度ではなく、政策提案に近い制度なので、そういった市の施策と市民活動がどのように関連していくか、そういった仕組みについても、提案が取り入れられる、といったような市政への参画の観点も含めて、意見があったりしました。

市民活動センターに求められる役割の変化についてですが、静岡市の市民活動センターができて 15 年ほどが経過しますが、市民活動に関する情報提供の部分とか、施設の利用、貸出といったところが、やはり時代の変化で求められる役割も変わってきていて、そういった役割を考える場やそれを踏まえて市民活動の促進をどのように進めていけるのか、といったところにつながる議論ができれば、といった話もでました。

ここからネットの活用についてですが、イベント情報やボランティア情報の発信ということだけではなく、市の職員等が、どの地域でどのような市民活動が行われているか、そういった情報を把握するために使えるサイトとして、市民活動をアーカイブしていくことで、役割を発揮することができるのではないかといった、サイトの役割、活用方法といった視点での議論があったかと思います。

これらを事務局からあげさせてもらいました。協議をよろしくお願いします。

（山岡会長）
　基本計画の策定にあたり、たくさんの議論を皆さんとさせていただきました。当然そこで議論しきれないこともありましたし、もう少し時間があれば丁寧に議論すべきだったこともあったと思いますので、本日は最後の協議会でもありますので、皆さんに自由にご意見をいただければと思います。項目をあげていただいておりますが、項目ごとに順番にという形ではなく、それぞれの項目重なり合うところもありますし、気が付いたところから

自由にご発言いただくということで良いと思います。いかがでしょうか。

（川村栄司委員）

今日、振り返りをやるということで、過去の議事録にざっと目を通しました。あらためて議論の中身は、皆さん本音でお話になっているなと思いましたし、それぞれバックグラウンドが違うものですから、A さんがこういう発言をすると、それに関連して B さんが違う観点で発言することで、いい意味で発展的な議論ができていたのかなと思っています。

我々は答申をしましたが、受けた静岡市は、計画に私どもの意見を入れていただいた、汲み取っていただいたということは言えるかと思います。従って、この基本計画がバイブルになって、今後 8 年間のベースになる訳ですから、そういう意味ではイラストとかちょっとした言葉遣い、そういったものも含めて、分かりやすいものになっていると思います。ただ、一般の市民の方がこれを初めて見た時にとっつきやすいかというと、やはり市民活動は、ものすごく幅が広くて、どこからどこまでというのが線引きできないものですから、それぞれが自分の思う活動に、基本計画を投影しながらやっていくしかないかなという印象を持ちました。

また私が印象に残っているのは、パブリックコメントを集める作業がありましたが、出前講座を大学 2 校に行って、パブコメも回収できた結果、20 代の方から多く意見を寄せられたことは、意味があったと思います。そういう工夫をしていただいた結果、若い世代の声を盛り込めたのは、すごく良いことだと思っています。

今後のテーマの中では、自治会、町内会という話題も挙げられています。自治会、町内会は、年配の世代の方が中心に運営されているケースが多いかと思いますが、今後は若い世代の人間もうまく組み込みながら運営していくということが、キーポイントになると思います。

もう一つ気になっているのは、基本計画の中では、昨今の社会情勢も反映していただいていますが、直近で言うと物価高が全然止まらなくて生活が本当に苦しくなっているような背景がある中で、市民活動がいかに前向きに明るくやっていけるのかがキーポイントになると思います。過去に山本副会長も発言されていますが、市民活動は、関わっている人が楽しそうにやっているのが大事だ。という意見には、なるほどと思いました。そういう気持ちに持っていくにはどうしたらいいのか、静岡市は何ができるのか、市民は何ができるのか、というようなところもポイントになってくると思います。以上です。

（山岡会長）

楽しむために何ができるか、基本計画の施策の柱に「楽しむ」と設定もしましたので、社会的背景も踏まえて、考えなければいけない内容だと思います。

世代間の交流に関しては、年配の世代の方の場合は、自治会、町内会の活動を通して市民活動との繋がりや連携、あるいは地続きであるという認識が生まれることもあると思い

ます。逆に高校生のような SDGs ネイティブの若い世代は、自分たちがこんなことしたい、こんな風に世の中を良くしたいと思って活動していますが、それが市民活動だとは思っていない場合もあります。両方の視点から見た時に、市民活動を通した交流は成立するのか、この問題については、市民活動センターに求める役割も含めて、さまざまな工夫ができるのではないかと思います。

（大畑委員）
基本計画の全体を見て、非常にまとまっていると思います。
特に気になっている事項については、自治会、町内会についてです。具体的な事例を申し上げますと、私の住む地域の町内会は、5 年ほど前までは、後継者が見つからずこのままでは高齢者の集まりになってしまうという不安がありましたが、最近は子育て世代の住民が増えてきて、非常に嬉しいです。一方で地域の中で子育て世代の声が大きくなっていることに加えて、我々との世代間の壁を感じています。こういった状況の中で、これからの町内会運営を、どうやって若い世代の人にバトンタッチしたらよいのか、非常に大きな悩みです。
また先ほどの川村委員の発言でも「楽しむ」という話がありましたけれど、私は更に市民活動をする人間を増やすためには「面白そうだな」と思わせることが必要ではないかと考えます。「面白そうだ」と思った人が、活動に参加しやすいような広報やキャッチフレーズを作りも必要ではないかとも思います。

（山岡会長）
若い人や子育て世帯の声が大きくなってきたという点について具体的に教えてください。

（大畑委員）
新しく分譲された土地に新築で引っ越してくる世帯が非常に増えています。

（山岡会長）
そういう方たちは、町内会の活動に顔を出してくれますか。

（大畑委員）
今のところ、そういったことはないです。

（山岡会長）
深く交流はしていないが、非常に壁は感じるということですか。

（大畑委員）
　そうです。若い世代の方に壁があるのではないか思っています。

（池田委員）
　これは、どこの自治会さんでも課題になっている事項です。このような悩みを抱えている方々には、「自治会運営を大変なものではなく、楽しいものに変える必要があるということ。自治会に関しては、もっと自由であっていい」ということをお伝えしています。

（山岡会長）
　いわゆる地縁の組織については、加入した以上何かやらなくてはという義務感からくる行動ではなく、もう少し市民活動的な発想で運営をしてみたらということでしょうか。

（池田委員）
　前提としてやはり地縁の組織は、完全に自由な市民活動とは違います。やらなくてはならないこともあるので、その目的や意義を共有することが必要です。また合理的な運営等についても、自由な発想で周囲を取り込む必要はあると思います。
　そういう点も必要ですが、それよりも今あることをいかに楽しく繋いでいけるか、合理的に気持ちよく繋いでいけるかというところで自由であってよいということです。ただし地縁の組織なので、住民による承認は必要ですよ、ということになります。

（山岡会長）
　他いかがでしょうか。

（片井委員）
　自治会活動についてですが、夜の会合は勿論ありますが、昼間の活動も沢山あります。若い世代の方々は、昼間は働いていますので、昼間の活動ができないことを理由に自治会の役員を引き受けてもらえないことが多いです。現状だと昼間の時間に余裕があるのは、70 歳代ということになりますが、やはり体力の問題などから引き受けてもらえない。私は現在引き受けていますが、辞めたいという意思を持っても辞めることができない現状です。
　活動をどう広めていくかという点についてですが、私の所属する丸子まちづくり協議会と地区社協と自治会連合会の三者で広報誌を作って年 4 回程度全戸配布を行っています。広報誌を通して、さまざまな募集や活動の呼びかけを行っていますが、なかなか浸透しません。ここからネットについても、情報を求めている人は利用するかもしれませんが、我々は、情報を求めていない人にも情報を届けたいし、行動を起こしてもらいたい。そのためにどうやって情報を届けるかという点については、自治会活動でも市民活動でも同じ

悩みを抱えていているのではないかと思います。

（北川委員）
　自治会についてですが、企業側の視点からも話をさせていただきます。今、我が社では、これからは地域貢献活動をもっと活発に行おうという気運が高まっています。社内には、町内会の活動や、NPO 団体や市民団体といったさまざまな社会課題を解決するための活動をしている社員が沢山います。今まではそういう社員は、個人的に活動をしていましたが、会社としても社員の活動にしっかり目を向けましょうということで、活動内容を会社に自己申告させて、もちろんボランティア休暇や所定の休暇はもちろん取得できますが、それに留まらず、活動を一定の評価ポイントにして、１年間の集計をした上で社員を表彰してあげようという計画をしています。将来的には、人事的な評価にも繋げていこうということという計画を立てています。

（山岡会長）
　素晴らしいですね。現状では会社として把握されていないかもしれません。自治会活動や市民活動をされている方々は沢山いらっしゃると思いますので、是非後押ししていただきたいと思います。こういった企業の取り組みを市民活動団体や NPO 団体側からも着目して、応援する等、双方向の働きかけができるとよいと思います。

（木下委員）
　２年間を振り返ってというところに戻りますが、一つ後悔していることが、傍聴席に人を呼べなかったという点です。こんなにもプロセスがオープンになっている場を、もっと周囲に伝えればよかったと思っています。
　また、現状の協議会委員は、ジェンダーバランスも少し男性寄り、年代層も少し上目になっていますので、次期協議会の委員を選ぶ際には、もし可能であれば大学生や高校生を任命できればと思います。その子たちが傍聴人で同級生を連れてきてくれるのではないかということも期待しますし、この場自体が発信拠点になることもできるのかなと思います。また女性、若者だけではなくて、外国の方や障害のある方といった、委員自体が多様性を持っていれば、そこから委員からの発信等で色んな多様な方たちに色んなメッセージを届けられるかもしれないなというのは感じました。
　また基本計画を振り返りますと、市民活動センターの役割の変化と、計画の進捗の評価のところに関連して、施策の柱３の成果指標が、市民活動センターにおける新規登録団体数だけというのが少し引っかかります。この成果指標だけを見ると、センターの役割がここに集約されているかのように思えてしまいます。もちろん大事な指標ではありますが、これに加えてさまざまな指標がないと、２年後、４年後に市民活動センターを評価する際に、新規登録団体数が伸びていなかったら駄目なのかとなってしまう恐れがあります。も

う少し違う、質を測る成果指標を入れてもよいのではないでしょうか。これは評価する側にとっても必要なことではないかと思います。
また成果指標に対して想定された事業を見ると、現状ある事業しか入っていません。８年後を想定して目標設定をするのであれば、何かそのためには、新しい事業創出のワクワク感みたいなものがあってもいいのかなと思います。想定されるという範囲で、あまり無責任なことは書けないかもしれませんが、現状あるものだけが並んでいると、あまり関心を寄せてもらえないのではないかと思います。今後この目標に向けて、こういう事業が新しく色んな人達と連携して生み出したいみたいな気持ちが基本計画に含まれていますと、未来に向けてワクワクする計画という感じになるかなと思います。基本計画ができ上がってからお伝えするのは心苦しいですが、次期協議会の委員の皆様には、この基本計画を達成するためにもっとこんなことが必要なんじゃないかという視点で、新しい事業提案のようなことが出てくるとより良いのかなという印象を受けました。

（山岡会長）
　事業については、年度ごとに提案していくものではないかと思います。今木下委員が仰っていただいたような、新しい事業を基本計画に盛り込むことは可能でしょうか。

（事務局）
　事業については、市の予算の枠組みとしては毎年事業を提案し、予算として成立した上で事業を行っていくものになっています。基本計画に記載された事業しかやらないというわけではなく、毎年、必要なことを提案していくことになります。木下委員が仰られたように、計画には現行の事業のみしか記載していないというのは、現状その通りではありますが、あまり決まっていないこともなかなか書けないというところもございます。

（山岡会長）
　委員の多様性については、仰るとおりです。次期協議会では、ぜひ木下委員の意見を取り入れてまた、傍聴に関しても、委員の我々からも働き掛けをしていくとよいと思います。

（川村栄司委員）
　冒頭の私の発言の訂正をさせてください。山本副会長が楽しくやるのが大事だと仰っていた件ですけれど、私が議事録を読み返していいなと思ったのは、「私たちがパワフルになることが豊かさだ」という発言です。パワフルと楽しさというのを繋げてしまったものですから、微妙にニュアンスが違うかもしれませんので訂正させてください。
　また木下委員の発言で、学生の意見の反映という話が出てきましたが、既存の仕組みの中でも大学生に相談する機会があるので、そうしたものを活用することも可能だと思いま

す。

（池田委員）
　ちょっと戻ってしまいますが、先ほどの片井委員や北川委員の話を受けて、北川委員の会社でやられている表彰はすごく良いことだと思います。自治会活動も市民活動も、多くの人がやらなくてはと当たり前に思って活動しています。そういうところで、感謝されたいわけではないですが、活動を通して自己承認欲求を得られることは、実はすごく肝だと思います。私は講演で呼ばれると、同じ理由で頑張っている人たちがいる、そしてみなさんがやっていることは世の中の役に立っているということをお伝えするだけで喜んでいただいて、次また頑張りたいと思うと仰る方がいます。これを踏まえると、活動されている方の承認欲求を満たすことがしやすい立場は、行政なのではないかと思います。また、何十団体もある中で必ずきらりと輝く方、自治会さんがいらっしゃいます。現状はそういう方たちを事例として共有できていません。そのような仕組みづくりを、静岡市で検討していただくことが必要でないかと思います。今後の市民活動、特に自治会、町内会というのはあって当たり前、頑張っていても言わない方がよいというところがありますので、ぜひその辺りをちゃんとフォーカスして表舞台に上げていくということをやっていただければと思います。これは市民活動も同様だと思っています。

（深野委員）
　皆さんのお話を色々聞きながら考えていましたが、まず作る過程において最初パブリックコメントや大学生の意見参加の場があったという点について、計画を作るプロセスに市民が参加できる仕組みやら機会があることは大事だなと思いました。特に市民自治という意味においては、参加したことがきちんと結果に繋がる仕組み、制度があるのはすごくいいことだと思います。基本計画自体が、「あたりまえに活躍できるまち」というところが目標としてあると、当たり前に活躍できるような制度をこれから静岡市も私たちも含めて作っていかなければいけない中で、市民活動をしているだけの人だけではなく、市民の意見がきちんと表明できる場があったり、それが形になる道筋が見えたりすることが大切だと思いました。個人の考えを形にする一つの表現の場として、市民活動の場というものがあります。全員が活動してなくても、そういう活動をすることで少しでも社会が変わっていく、あるいは、世の中が良くなったり楽しくなったりできるよ。と実感を得られるような場を静岡市は提供する姿勢があるというアピールをもっとできるといいと思いました。そのためには、基本計画を作るプロセスでも皆さんに意見をいただいた場を設けたように、基本計画を進めていますよという点についても、もっとアピールする場を作っていただければと思います。例えば市民活動センターに市民を集めて、意見を持ち寄ったり、お互いの意見を共有しながら自分に置き換えたり意見表明をする等、市民が変化を感じ、楽しみに変わっていくことにつながる場あるといいなと思います。

また、難波市長の当選後の初めての記者会見の中で、市民の声を聞く。それを市政に反映させる仕組みをつくると仰っていました。この仕組みが実現すれば、より、基本計画が活きていくのかなと思います。

（山岡会長）
大事なことですよね。計画作ると、次は評価という話になりますが、そうではなく、声を集めてよりよくしていくということを考えながら計画を進めていく。特に世の中の変化のスピードを考えれば計画の進め方も工夫する必要があるなと思います。

（田中委員）
プロセスにコミットすることがすごく大事だなと思いました。自分自身も協議会に参加したことで、基本計画が自分のものになったなという実感が持てましたので、若い世代に参画してもらうことは非常に大事だなと思いました。２年前から高校の授業に総合の探究の時間というのが設けられるようになりましたが例えばその授業中に、静岡市はこういう取組をしているので、どのような課題があるか等、基本計画を活用しながら議論するような方法も併せて考えていく必要があると思います。

（山本副会長）
発言の前に質問ですが、市民活動センターの指定管理の更新はいつでしょうか。

（事務局）
市民活動センターの指定管理期間は、５年間です。現在の指定管理期間は、令和３年度から開始していますので、令和７年度に更新されます。

（山本副会長）
更新作業は、１年半ぐらいから前から開始するのでしょうか。

（事務局）
仰るとおりです。およそ１年半前から準備がはじまります。

（山本委員）
私の提案は、市民活動センターの名称や仕様書を変更しましょうということです。広島県福山市では、静岡市でいうと市民活動センターの位置付けの施設をまちづくりサポートセンターと呼んでいるそうです。名称の分かりやすさもありますが、市民活動団体だけではなく、事業者も含めた幅広い人が利用する施設になります。市民活動がどんなにオンライン化しても、やはりセンターというのは、１つの象徴であり要であると思います。今後

のセンターには、柔軟に動けるようなハード管理と明確なソフトウェアを作り、中間支援としての役割を厚くしてほしいです。静岡市には、そのための指定管理としての仕様書を作成し、実現していただきたいと思います。

また基本計画の成果指標についても、成果資料を別途作成してみてはどうでしょうか。基本計画には４つの柱があり、少しずつ視点が異なるため、柱ごと４回、成果について確認しあうような場を設けてみてもよいと思います。

（山岡会長）

神奈川県の逗子市にも市民文化交流センターという名称の施設があります。そこにはソーシャルビジネス系やクリエイター系の人たちの利用もあると聞いています。指定管理という話もありましたが、事務局から何か意見はありますか。

（事務局）

先ほど申し上げたとおり、今の市民活動センターは 15 年前にできたものになっています。当時の市民活動促進に対する考え方や必要な機能を検討された結果として、今の市民活動センターができた経緯があります。第４次基本計画下での市民活動センターの役割については、現在の指定管理者ともしっかり話し合いながらあるべき形を考えていきたいなと思います。

（深野委員）

市民活動センターは、実感としてパワーダウンしている印象はあります。まず、利用者が固定化されていて、特に若い人の利用は少ないように思います。また 15 年前と現在とでは、必要なものに変化が生まれていると思います。市民活動をする人たちが多様化している中で、問題解決に向けたセンターの具体的な役割等については考える必要があると思います。

（山岡会長）

山本副会長からもあったように、全国にはさまざまな事例があります。先進事例を共有しながら協議していくこともよいと思います。

（殿岡委員）

寄付の話に戻りますが、お金を出す側も何かきっかけが必要だと思います。寄付したことを表彰されたいわけではありませんが、もう少し積極的な公表をしていただくとよいと思います。また外部の発想を取り入れる方法として、企業への参加を働きかけるのもよいのではないかと思います。

（山岡会長）
ありがとうございました。本日をもって第８期の市民活動促進協議会が終了となりますので、最後に委員の皆様から感想やコメントをいただければと思います。

（池田委員）
改めて第３次計画と第４次基本計画を比べてみて、第４次計画が「市民の現状」から始まっているのは好ましいと思いました。対象を見越した計画になっていることが、皆さんが理想としているところに近づく一歩になったのではないかと思います。

（大畑委員）
協議会を通じ、色々な課題について、さまざまな視点からの意見を聞けて非常に勉強になりました。様々なボランティアをやっていますが、特に町内会、自治会については今後も関わりを持ちたいと思います。

（片井委員）
自分のなかの協働のイメージがだんだん変わっているなと思いました。先ほどの表彰の件についてですが、アドプト運動を始めた時に先進県に話を聞いたことがあります。その当時公園の整備、あるいは道路の花壇を管理者ではなく、市民にやってもらうという形を採用し、整備した人たちの氏名を大きな看板で明示していたそうです。それが整備した人たちの頑張りが行き過ぎてしまい、利用者とうまくいかなくなってしまったというケースがあるそうです。自分の仲間が防災の関係で、学校に教えにいっていたときに、学校が手を焼いていた子が防災のことをほめることで非常になついてくれたことがあります。
そういう意味でも表彰する、ほめるということは大事だと思っています。

（川村栄司委員）
これまで災害系を中心にボランティアをやっていましたが、バックボーンがなくても１人の人間として何ができるのだろうかという観点で、参加させていただきました。今後もこのような視点を持っていきたいと思います。

（北川委員）
基本計画ができ上がりましたが、これはスタートラインだと思いますし、計画を確実に実践していくためには、この計画に魂を吹き込んでいかなくてはならないと考えています。そのために多くの市民にこの計画を知ってもらう必要があると思いますので、私も会社へ持ち帰って社員へ周知したいと思います。また、社会の変化が目覚ましいため、こういった計画だけに縛られるばかりではなく、柔軟に見直しをしていく必要もあると思います。

（木下委員）
　もともと国際協力畑であったので、市民活動というところでいうと、ここに携わるようになってから深く考えるようになりました。この協議会で色々な方の視点や意見を聞くことで学ばせていただきました。言いたいことも言わせていただくなかで、途中から指定管理を担うようになり、そちらの視点もはいってきました。また協議会の雰囲気が良く、自由に発言をさせてもらえました。今回できた基本計画を、広めていく側にも協力できたらと思います。

（田中委員）
　市民活動という文脈で呼んでもらえるとは思っていませんでした。というのも、自分が行なってきた、ひとり親支援が市民活動だとは思っていなかったので、呼んでもらえたことに驚いたことと、うれしかった気持ちで参加させていただきました。ワークショップ等の経験もとても面白く、協議会に参加できたことは貴重な体験でした。

（殿岡委員）
　さまざまなプロの方に囲まれて参加しながら、自分のやれることからしていくことが社会貢献ではないかなと悩みながら聞いていました。

（深野委員）
　私は、市民が主役になってまちづくりをするための市民活動であってほしいと思います。その考えを協議会の中でも伝えられ、また皆さんも同じように考えていらっしゃるなと思いました。計画を作って終わりではなく、目指すべきところにいけるように、今後も協力をしていきたいと思います。

（川村美智委員）
　４次基本計画は、言葉が優しくなり、わかりやすいものになったと思います。一方、先日、協働パイロット事業の審査委員も行いましたが、その時に市が提示された課題が難しすぎるなと思いました。もう少し自分たちの暮らしに密着したような内容での方が市民の皆さんにとってはハードルが低く、取り組みやすいのかなと思います。

（山本副会長）
　協議会では、委員が発言したことを事務局が受けて終わってしまうような形ではなく、どんどん対話が進んでいくような形を取りたく、それが実現できてよかったです。次期の目標として、傍聴席の活発化を目指してほしいです。この協議会の場が活発になることで、市民活動の活発化へつながっていけば、より活きた計画になると改めて思います。基本計画冊子の表紙には、「自由に楽しく」と書いてありますが、市民活動を行うにあたっ

て、一番大事なことは、自由であることだと思います。ただし自由には責任もついてきますので、自由であるからこそ辛いことや大変なこともありますが、それを達成する楽しさがあるということを次の世代には伝えていきたいと思います。これを踏まえて、次期協議会委員は若い人の比率を高めてくれることを期待しています。若い人が経験を積めるような、そんな場にこの協議会がなれたらと思います。

（山岡会長）

私は静岡市民ではなく、静岡市の市民活動の現場に参加できていない中で委員を引き受けて不安でしたが、委員の皆さんの活発な発言に救われました。委員の皆さんがそれぞれ現場をお持ちで、普段から感じていること、それを踏まえて市民活動がどうなってほしいかということを広い視点で考えて発言をしてくださったからだと思います。

また市民活動は、楽しいことが前提で、自由であるべきだという発言がありましたけれど、私はそれに加えて自発性ということが大事だと思います。自分がやりたいことをやるということは、当然楽しいことであります。またそのような活動を議論する協議会の場も楽しくてはならないと思います。委員の皆さんが広い視点で考えを持ち発言してくださったおかげで、とても楽しい協議会となり、本当によかったと思います。